

**2026年3月期（第126期）第1四半期
（2025年 4月 1日～2025年 6月 30日）**

芦森グループ決算説明資料

連結業績は、売上高 16,782百万円、
営業利益 656百万円、経常利益 741百万円、
親会社株主に帰属する四半期純利益 180百万円となりました。

2025年 8月 8日

芦森工業株式会社

証券コード：3526

前年同期比で 減収減益

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比	
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	17,522	16,782	▲ 740	▲ 4.2
営業利益	1,154	656	▲ 498	▲ 43.2
（営業利益率）	6.6%	3.9%	-	▲ 2.7
経常利益	1,410	741	▲ 668	▲ 47.4
特別損益	69	▲ 527	▲ 596	-
税金等調整前 四半期純利益	1,479	214	▲ 1,265	▲ 85.5
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,053	180	▲ 873	▲ 82.9

■ 売上高/営業利益/経常利益

・ 前年同期比ではマイナスだが、
計画比ではプラス。

■ 特別損益の内容

・ 自動車安全部品事業の
製品保証損失 ▲ 527百万円

（過去に製造した製品に対して、昨年、顧客が保証期間
の延長を実施したが、今般、サービスキャンペーンの措
置がなされたこと等に伴う費用負担見込額）

2. セグメント別業績の概要

2026年3月期（第126期）
第1四半期 決算説明資料

		2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比	
		百万円	百万円	百万円	%
自動車安全部品事業	売上高	12,944	12,212	▲ 731	▲ 5.7
	営業利益	769	410	▲ 358	▲ 46.6
	(営業利益率)	5.9%	3.4%	-	▲ 2.6
機能製品事業	売上高	4,569	4,561	▲ 8	▲ 0.2
	営業利益	524	403	▲ 120	▲ 23.1
	(営業利益率)	11.5%	8.8%	-	▲ 2.6
その他	売上高	8	7	▲ 1	▲ 12.5
	営業利益	4	3	▲ 0	▲ 10.9
全社費用	一般管理費	▲ 143	▲ 161	▲ 18	-
合 計	売上高	17,522	16,782	▲ 740	▲ 4.2
	営業利益	1,154	656	▲ 498	▲ 43.2
	(営業利益率)	6.6%	3.9%	-	▲ 2.7

■自動車安全部品事業

豊田合成株式会社との協業活動による生産性の向上および業務効率アップや経費削減の自助努力による効果はあるものの、一部の生産調整および円高の影響もあり、前年同期比で減収減益。

■機能製品事業

・パルテム

前期からの下水道分野を中心とした繰越工事が着実に進み、加えてユニライン（送電効率低下対策用送水ホース）や大型土木案件向けSZパイル（強化プラスチック製土留材）が想定より前倒しで出荷が始まったことにより、前年同期比で増収増益。

・防災

消防用ホース、防災資機材など前年同期を上回る水準の販売があったものの、原材料費高騰の影響を受け、前年同期比で増収減益。

・産業資材

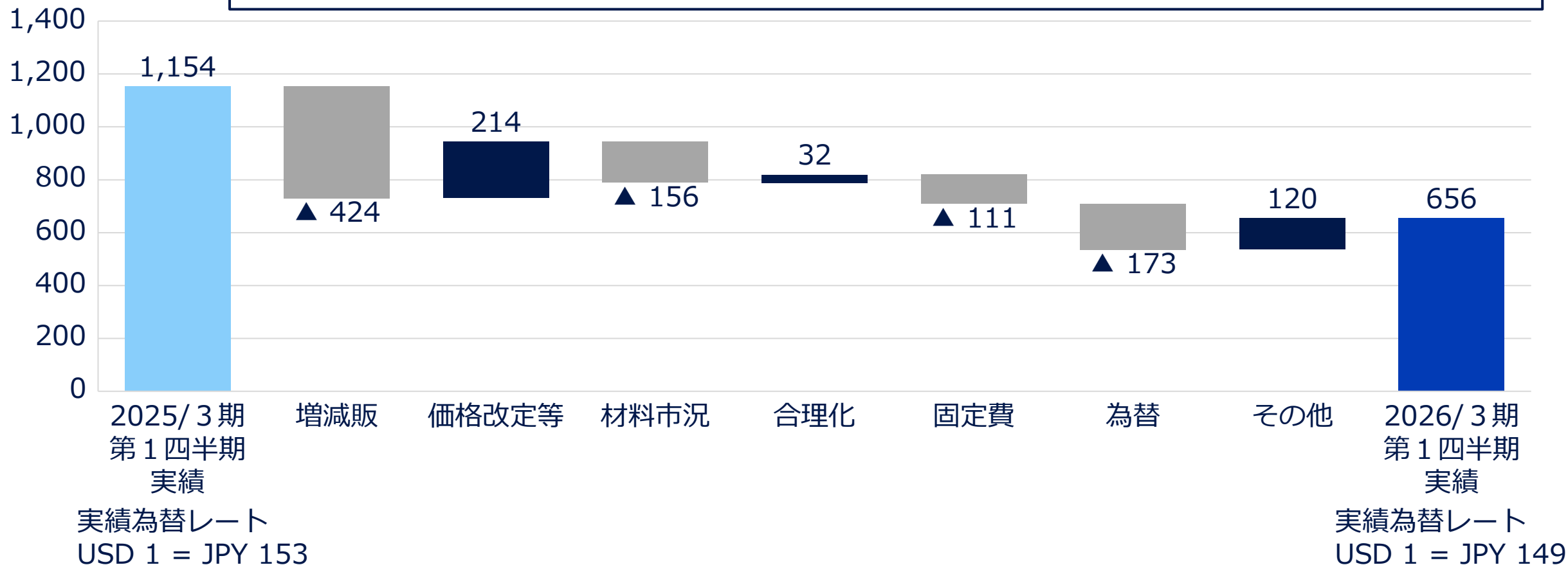
前期から鮮明になった市況回復傾向が継続しており、主力の物流・自動車産業向け商品の販売は堅調に推移したが、前年同期に住宅・土木関連向け地盤改良製品で大型土木工事案件の納入があったことにより、前期同期比で減収減益。

3. 営業利益の増減要因

2026年3月期（第126期）
第1四半期 決算説明資料

前年同期に比べ、販売数量が減少し（増減販）、原材料価格が上昇（材料市況）。販売価格の引上げ（価格改定等）や生産効率の向上（合理化）に注力したものの、間接部門の労務費と技術開発費の増加（固定費）のほか、円安の修正（為替）が進んだことにより、減益となった。

(単位：百万円)



4. 連結B/S

2026年3月期（第126期）
第1四半期 決算説明資料

（単位：百万円）	2025年3月期 第1四半期末	2025年3月期 期末	2026年3月期 第1四半期末	前期末比
流動資産	35,040	35,226	34,773	▲ 452
固定資産	19,155	19,044	19,379	334
資産合計	54,195	54,271	54,152	▲ 118
有利子負債	14,599	11,323	13,981	2,658
その他負債	16,745	17,992	15,945	▲ 2,047
負債合計	31,344	29,315	29,926	610
資本金	8,388	8,388	8,388	-
資本剰余金	1,632	1,632	1,632	-
利益剰余金	11,354	13,046	12,623	▲ 423
自己株式	▲ 148	▲ 104	▲ 86	17
その他の包括利益累計額	1,572	1,955	1,632	▲ 322
新株予約権	27	13	12	▲ 0
非支配株主持分	24	23	23	▲ 0
純資産の部合計	22,850	24,955	24,226	▲ 729
負債及び純資産の部合計	54,195	54,271	54,152	▲ 118
自己資本比率	42.1%	45.9%	44.7%	▲ 1.2

■ 積極的な設備投資に伴い、前期末比で「有利子負債」が + 2,658百万円。

■ 仕入債務・未払法人税等の減少により、前期末比で「その他負債」が ▲ 2,047百万円。

5. 連結 C / F と設備投資の状況

2026年3月期（第126期）
第1四半期 決算説明資料

（単位：百万円）	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	727	▲ 28	▲ 755
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 257	▲ 1,408	▲ 1,151
財務活動によるキャッシュ・フロー	741	2,126	1,385
現金及び現金同等物に係る換算差	140	▲ 198	▲ 339
現金及び現金同等物の増減額	1,352	490	▲ 861
現金及び現金同等物の四半期末残	6,608	6,778	170

「営業活動によるキャッシュ・フロー」・・・棚卸資産の増加等により、前年同期比で悪化。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」・・・設備投資の増加等により、前年同期比で悪化。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」・・・有利子負債の増加等により、前年同期比で改善。

（単位：百万円）	2022/3 期	2023/3 期	2024/3 期	2025/3 期	2026/3 期
	通期	通期	通期	通期	第1四半期
設備投資額	4,762	1,517	1,310	2,068	1,042
減価償却費	1,842	1,885	1,746	1,756	430

6. 2026年3月期 通期業績予想

2026年3月期（第126期）
第1四半期 決算説明資料

			2025年3月期 実績	2026年3月期 当初予想	2026年3月期 予想	前期比	
			百万円	百万円	百万円	百万円	%
報告 セグ メント	自動車安全部品 事業	売上高	52,855	46,000	46,000	▲ 6,855	▲ 13.0
		営業利益	3,379	2,200	2,200	▲ 1,179	▲ 34.9
		（営業利益率）	6.4%	4.8%	4.8%	-	▲ 1.6
	機能製品事業	売上高	19,723	20,000	20,000	276	1.4
		営業利益	1,892	1,600	1,600	▲ 292	▲ 15.5
		（営業利益率）	9.6%	8.0%	8.0%	-	▲ 1.6
	その他	売上高	25	24	24	▲ 1	▲ 5.9
		営業利益	9	12	12	2	27.0
	全社費用	一般管理費	▲ 663	▲ 800	▲ 800	▲ 136	-
合 計		売上高	72,604	66,000	66,000	▲ 6,604	▲ 9.1
		営業利益	4,618	3,000	3,000	▲ 1,618	▲ 35.0
		（営業利益率）	6.4%	4.5%	4.5%	-	▲ 1.8
		経常利益	4,213	3,000	3,000	▲ 1,213	▲ 28.8
		特別損益	▲ 801	0	▲ 527	274	-
		親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,758	2,200	1,800	▲ 958	▲ 34.7

■売上高/営業利益/経常利益

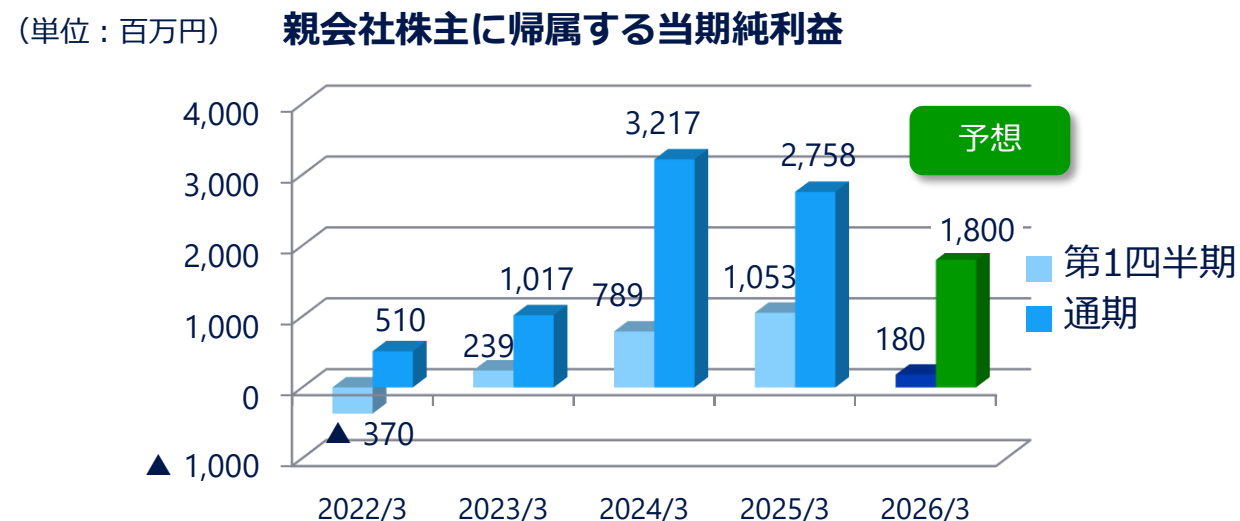
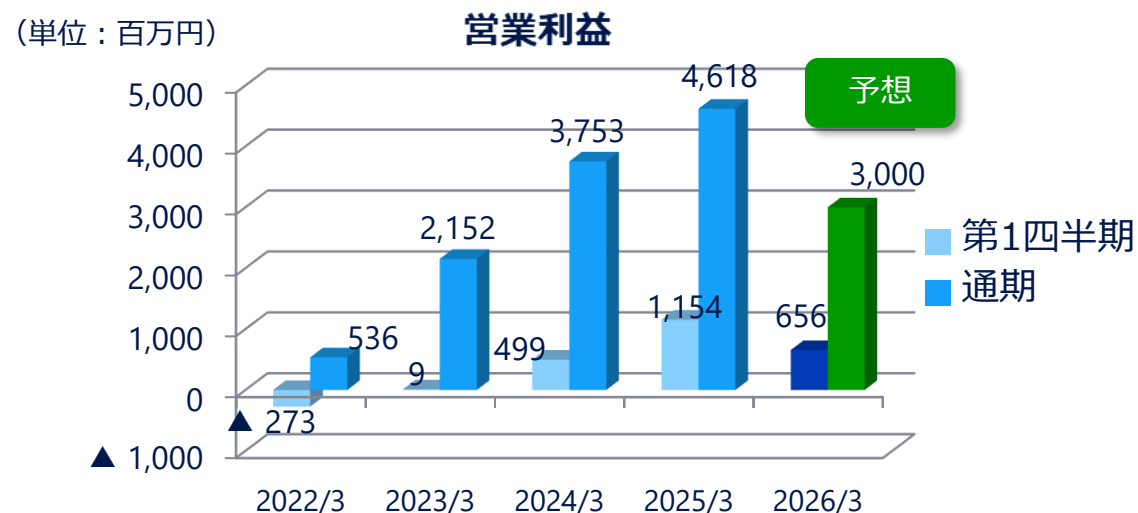
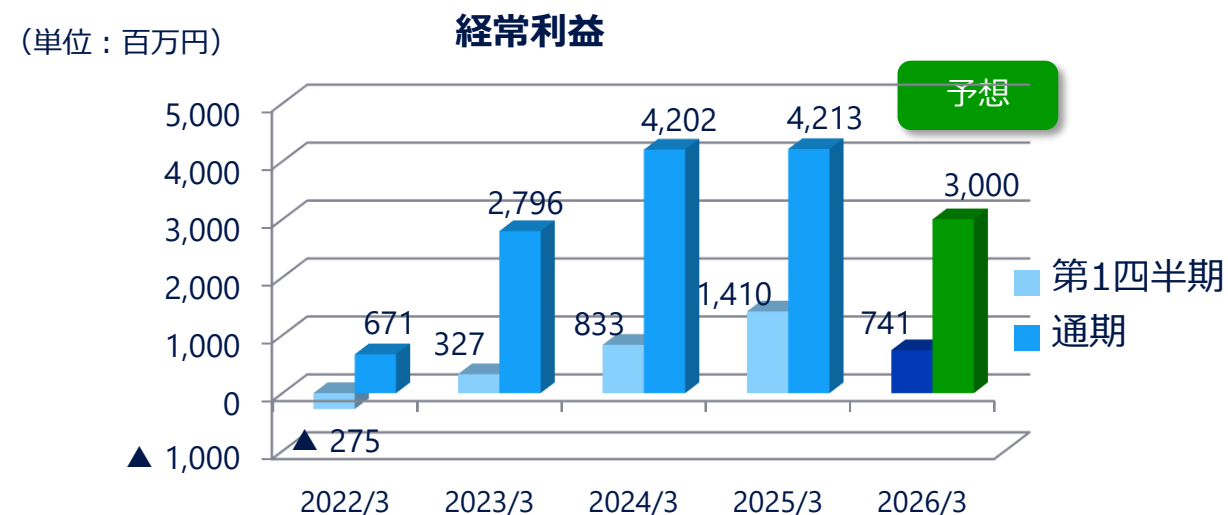
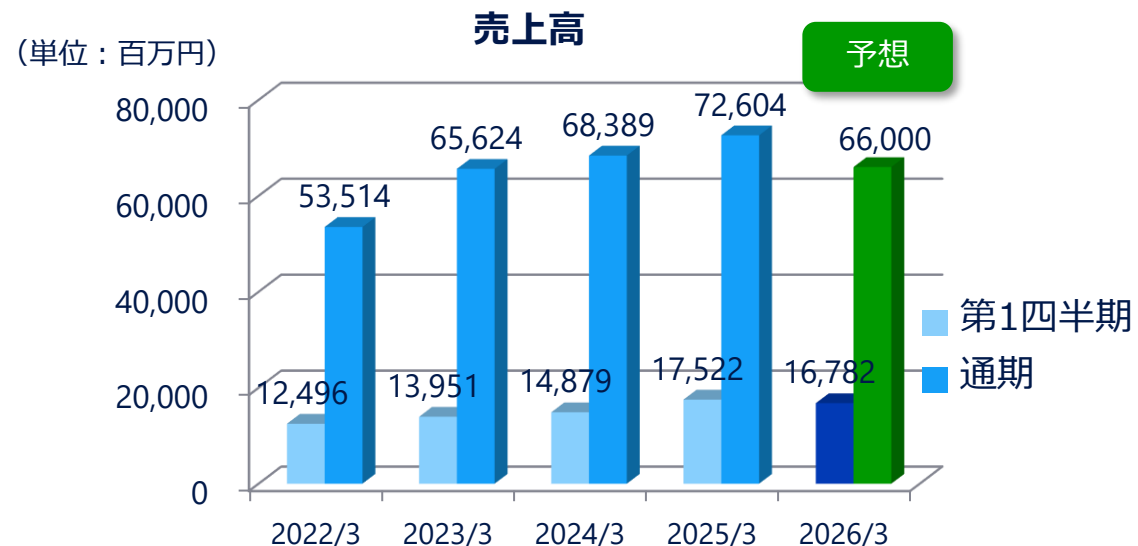
・概ね当初予想となる見込みであり、
変更なし。

■当期純利益

・特別損失の計上に伴い、引下げ。

7. 連結業績の推移

2026年3月期（第126期）
第1四半期 決算説明資料



自動車安全部品事業本部 主要製品のご紹介

シートベルト



1967年にシートベルトメーカーとして初めてJIS規格の認証を受けて以来培ってきた技術が詰め込まれており、「モーター巻取り式リトラクター」をはじめ、「次世代シートベルト」への挑戦にも積極的に取り組んでいます。

手動シェード



ドアトリム内にビルトインされた巻取り式ドアシェードです。使用時以外はドアトリム内に巻き取るため視界を遮ることがなく、また上端まで閉めればプライバシーを守ることができます。

エアバッグ



1986年にエアバッグの開発に着手し、1989年に量産を開始。座席サイド部分に内蔵される「サイドエアバッグ」や「カーテンエアバッグ」等、正面衝突以外の衝撃を緩和するための多種多様なエアバッグを製造しています。

セパレーションネット



乗員スペースとラゲージルームを仕切るネットで、急制動時に乗員スペースへの荷物の進入、荷くずれを防止し、乗員を守ります。

機能製品事業本部 主要製品のご紹介

パルテム・フローリング工法



住宅リビングの床をイメージできるフローリング工法は、円形のみならずあらゆる断面形に対応できる、主に下水道向け管路更生工法です。

消防用ホース 低圧力損失ホース



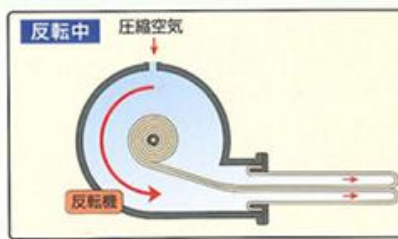
放水時の圧力損失を従来品と比較して最大約50%低減し、より遠く、高く、早く放水でき、低燃費で操作できるため環境への負担も軽減できるホースです。

リフトアップ式搬送システム「エアーロールシステム」



円滑なトラック貨物の移動により荷役作業を省力化させるシステムで、女性や高齢者でも容易に扱え、作業負担を軽減します。

ホースライニング工法



既設管の内面にシールホースを「反転」挿入し、新しくパイプを形成するパルテムの原点となる工法です。

緊急排水ホース「パルジェット」



水害や災害の現場で排水ポンプ車がすぐに使用できるように軽量化した緊急排水対策用ホースです。

軟弱地盤表層処理工法用シート「パレスシート」



格子状補強枠（専用モルタル充填円筒織物）と補強枠下の土木シートにより荷重を分散させ、軟弱地盤での沈下を防ぐ表層処理工法です。撤去も容易で原状復帰が可能です。

芦森工業株式会社 社是

1. 信用を重んじ、堅実を旨とする。
2. 人の和と開かれた心で活力ある企業を築く。
3. 創意を生かし、社業を通じて社会に貢献する。

Mission・Vision・Values

【ミッション】

“私たちの使命は、命と暮らしを守る製品を提供することです”

【ビジョン】

“私たちは、繊維で培ったコア技術を活かして社会課題を解決する企業であり続けます”

【バリュー】

“私たちは、誠実に、ルールを守り、品質最優先のものづくりに取り組みます”

本資料中の業績予想および見込みについての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

芦森工業株式会社 総務部 総務広報課

TEL : 06-6105-1680

MAIL : ir_madoguchi@ashimori.co.jp

HP : <https://www.ashimori.co.jp>

ちから
つむぐ **技術**、つなげる **未来**

